

まめなれどなにぞはよけくかるかやの亂てあれどあしけくもなし

〔拾遺和歌集七物名〕かるかや

しら露のかゝるかやがてきえざらば草葉ぞ玉のくしげならまし

〔枕草子三〕草の花は かるかや

〔散木弃詞集十隱題〕かるかや

我駒はしばしとかるかやましるのこはだの里に有とこたへよ

〔太平記二十八〕三角入道謀叛事

城ノ後ナル自深山、匍々忍寄テ、薄苺萱篠竹ナンドヲ切テ、鎧ノサテ頭胄ノ鉢付ノ板ニヒシト差テ、探竿影草ニ身ヲ隱シ、鼓ガ崎ノ切岸ノ下岩尾ノ陰ニゾ臥タリケル、

〔和漢三才圖會九十二末〕刈萱 正字未詳 俗云加留加也

按、此草生山原高二三尺、細莖細葉、每五葉兩兩對生、八月抽莖開細花、狀如景夫草及胡蘿蔔花、而粒粒青色、既開則正黃、是亦可謂如蒸粟乎、隨結子、

一云刈萱者芒之類也、秋出穗、

〔剪花翁傳七月開花〕刈萱 燕麥穗七月初、方日向地一分濕、土えらばず、肥淡小べん、移分株とも
に春彼岸よし、

〔和漢三才圖會九十二末〕黃茅 根名地筋 菅根 土筋 俗云加也 中略

按、黃茅其根細織而如絲、瓜筋及葦薈鬚、束之可以磨物、呼名字豆久利、出於藝州廣島、櫛挽家用之以
琢櫛、

〔重修本草綱目啓蒙八草〕白茅

集解弘景曰、詩云、露彼菅茅、コノ詩ニ詠ズルハ菅ト茅ト二物ナリ、弘景引テ一物トスルモノハ誤